

CLIMACITY

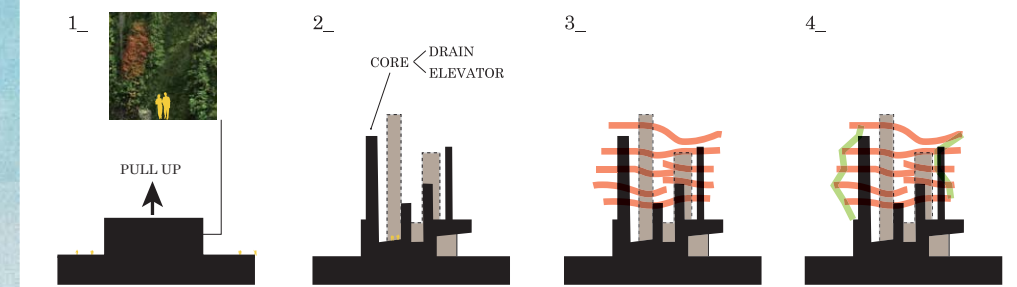
変動し続けながら存在する都市において、未来のコンプレックスの可能性は、気候を取り入れることにある。

我々の生きるこの常に変動し続ける都市において、恒常的に存在するものはアジアの気候であろう。現在の都心の高層ビルのように、基準階をただ積層するのではなく、日光や風、雨水によって生み出される多様な自然環境が建物全体を横断するように建築に入り込んで来る。人々は機能に沿ってではなく、建築内に生み出される自然環境に沿って活動し、建築内に自然発生的にプログラムが生まれて来る。

光が届き、風が突き抜け、雨が浸透する、気候によって変動し続ける都市“CLIMACITY”を構想する。



STRUCTURE DIAGRAM

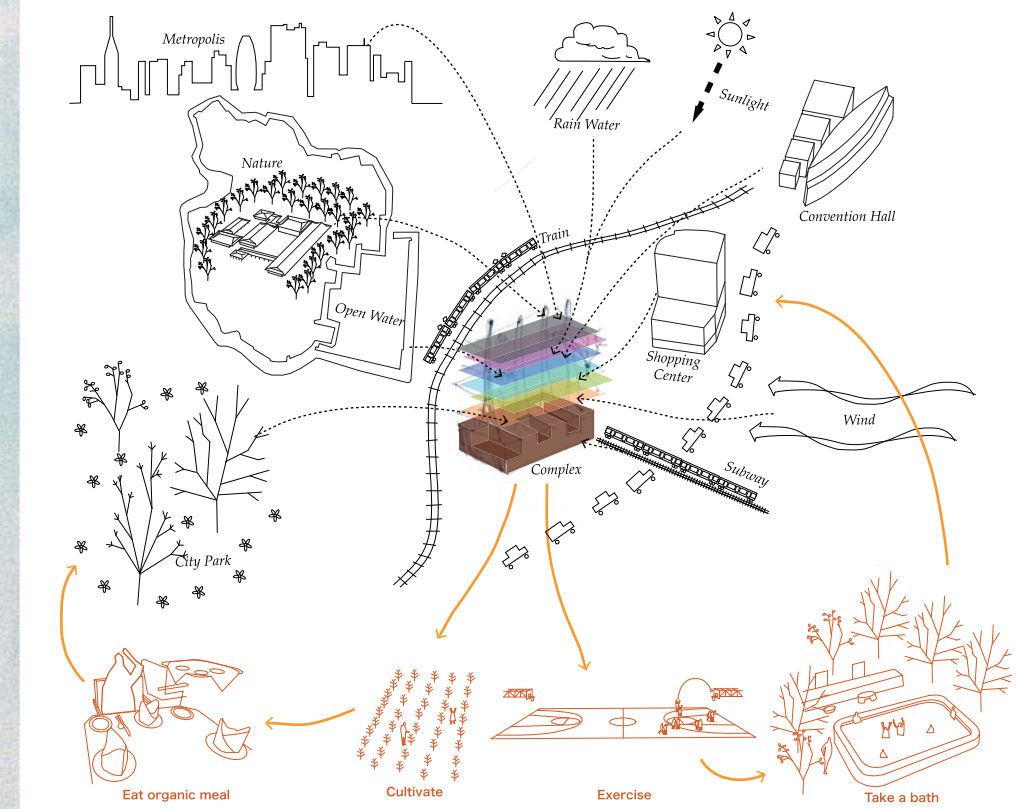


GL-LEVEL は土の地面が垂直に立ち上がり、多様な植物が植えられ、都市の緑が可視化される。

土を伴ったコアが上に伸びる。建築の構造となり、インフラが内包される。上階も緑があふれる。

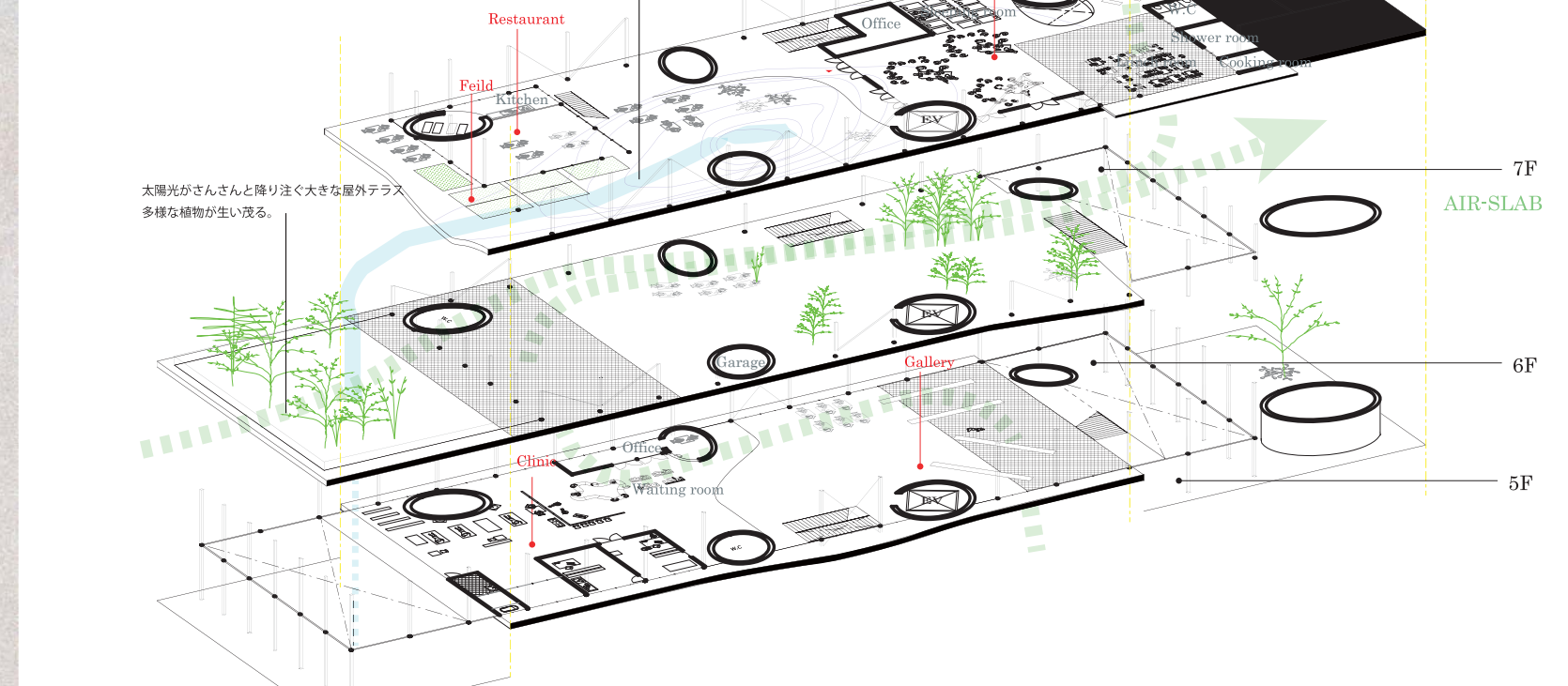
水や風の流れをつくるように、スラブが波打ちながら地形的に架かる。

気候に応じた数種類の異なるスキンのによって、外気が段階的に入り込んで来る。

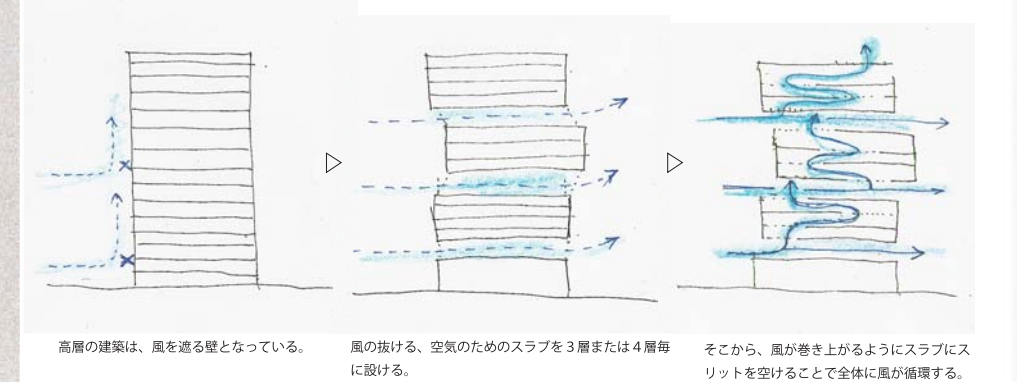


この建築は都市の活動の循環を促すフィルター装置のようなものである。エネルギーを消費するアクティビティだけではなく、農業やスポーツといった生産や活力を生み出すようなプログラムの組み方を提案する。日光や雨水、風が入り込んだこの建築では、畑や露天風呂、公園といったプログラムが可能である。例えば、上層で作られた畑で採れた食材の料理に吉鼓を打ち、食べた分は運動し、その熱で温められたお湯のシャワーを浴びて、また都市へと帰っていく。複雑にコンプレックスが起こるこの建築では、食物や行事が生産的に営まれ、都市の活力として還元されていく。

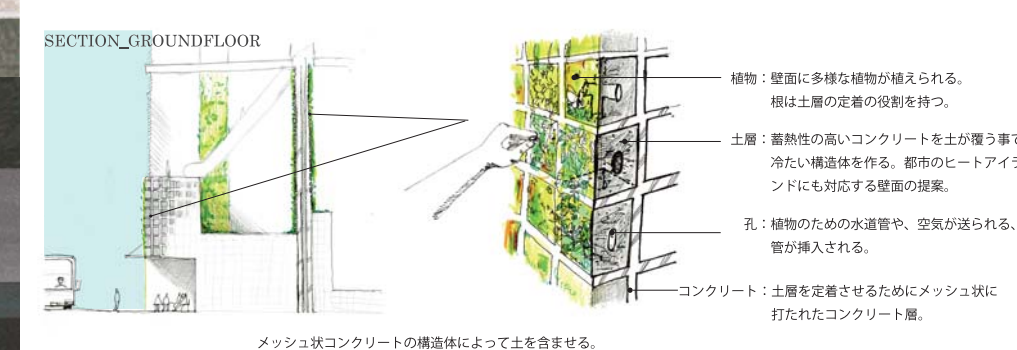
PLAN ISOMETRIC



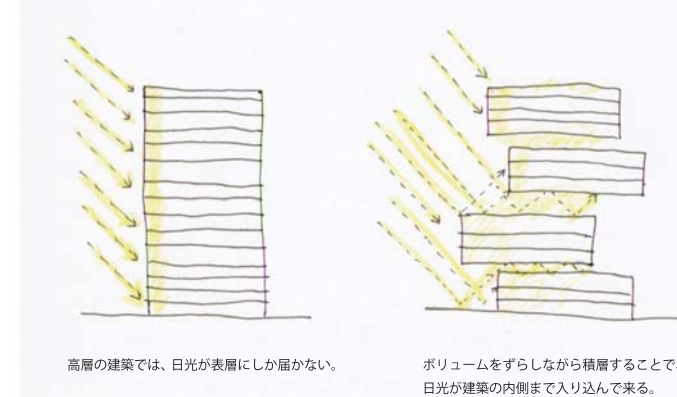
DIAGRAM_AIR-SLAB



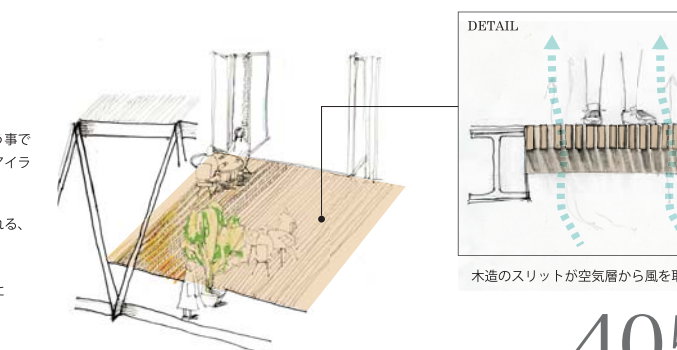
SAND-WALL



SUNLIGHT-CORRIDOR



SLIT-SLAB



空気スラブを介して全体に風が流れる

AIR-SLAB 内観